

学術会議任命拒否に抗議 撤回求めスタンディング 福島県革新懇



スーパー前でスタンディング宣伝する参加者—26日、福島市

日本学術会議会員の任命拒否は自由にももの言えない社会にするものだとして福島県革新懇は26日、福島市内のスーパー前で任命拒否に抗議、撤回を求めるスタンディング宣伝を実施しました。

佐藤政男代表、藤倉英一事務室長、小川英雄前室長ら約10人が参加。「菅首相は気に入らない学者を理由も示さず違法排除したが、こんなことがまかり通ったら戦前のような独裁と暗黒の社会になってしまう」「コロナ禍の対策でも罰則や制裁など菅政権の強権ぶりが目に余る。総選挙で政権交代し、政治を変えましょう」と訴えました。

昼休み時間帯とあって周辺の若い会社員の買い物客が多く、ビラを受け取り熱心に読む姿も目立ちました。中には「菅首相の“上から目線”や棒読み答弁の態度がひどい。許せない」と怒りをぶつける男性もいました。

行動参加者の石田邦子さんは「学者が研究内容を自由に発表し、広がるのが社会の発展につながる。改めて学術会議の役割を知り、強権の菅内閣に憤りを感じる。多くの人たちに知らせ、任命拒否を撤回させたい」と話しました。

2021年1月27日【社会】

「介入撤回」地域から

学術会議人事 東京・中野の学者ら 声明発表

菅義偉首相による日本学術会議会員任命拒否の撤回を求めて26日、東京都中野区の学者、文化人、弁護士、医師68人が賛同した声明発表の記者会見が中野区役所で開かれました。中島三千男・元神奈川大学学長、晴山一穂・専修大学名誉教授、弓仲忠昭弁護士が声明の趣旨を説明しました。

声明は昨年12月から賛同が呼びかけられたもので、任命拒否は政権に批判的な学者排除の疑いが強く、憲法で保障された思想・表現の自由の抑圧につながると批判しています。

中島氏は、▽歴史学をやってきたものとして、学問の自由が奪われ戦争に突入した経験から、人事介入は許せない▽戦後民主主義のとりでである日本学術会議の自律性を奪うものだ▽学問研究に大切な批判精神を奪うものだ—と強調しました。

晴山氏は、コロナ危機の下で人事介入問題が後景に追いやられる傾向があることについて「国民に事の本質が伝わり切れていないのも事実だ。今、地域から声を上げ、時間はかかるかもしれないが反対を広げる」と述べました。

参加した区民から「賛同者は区民のために働いている人ばかりだ。協力して根気よくやっていきたい」という発言がありました。

しんぶん赤旗  2021年1月27日【政治総合】